

国立民族学博物館研究報告 vol.3-3; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	3
号	3
発行年	1979-01-23
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009260

1978・9 3_卷3_号

国立民族学博物館 研究報告

-
- 農業をめぐる人のカテゴリーと相互関係——中部ジャワの一事例—— 関本照夫
トバ・バタック族における病気の民俗分類—— 吉田集而
Limau 村の家族、親族、村落の構造——ハルマヘラ調査ノート—— 松澤員子
Limau 村の漁撈活動——ハルマヘラ調査ノート—— 大胡 修
サンゴ礁海域における磯漁の実態調査中間報告 (1)
——石垣市登野城地区漁民社会の潜水漁法—— 端 信行
サンゴ礁海域における磯漁の実態調査中間報告 (2)
——石垣市登野城地区漁民社会の若干の分析—— 須藤健一
ミへの歴史と内なる「歴史」——Apuntes sobre la Historia
de los Mixes de la Zona Alta, Oaxaca, México 後記—— 黒田悦子
The Geographical Distribution of Sago-Producing Palms—— RUDDLE, Kenneth
A Brief Account of the Life of Zigla
according to Musgum Tradition—— EGUCHI, Paul Kazuhisa



国立民族学博物館

〒565 大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

3 卷 3 号

1978年9月

目 次

農業をめぐる人のカテゴリーと相互関係	
——中部ジャワの事例——	関本照夫…… 345
トバ・バタック族における病気の民俗分類	吉田集而…… 416
Limau 村の家族、親族、村落の構造	
——ハルマヘラ調査ノート——	松澤員子…… 465
Limau 村の漁撈活動	
——ハルマヘラ調査ノート——	大胡修…… 486
サンゴ礁海域における磯漁の実態調査中間報告 (1)	
——石垣市登野城地区漁民社会の潜水漁法——	端信行…… 520
サンゴ礁海域における磯漁の実態調査中間報告 (2)	
——石垣市登野城地区漁民社会の若干の分析——	須藤健一…… 535
ミへの歴史と内なる“歴史”	
——Apuntes sobre la Historia de los Mixes de la Zona Alta, Oaxaca, México 後記——	黒田悦子…… 557
The Geographical Distribution of Sago-Producing Palms	
.....	RUDDLE, Kenneth…… 572
A Brief Account of the Life of Zigla according to Musgum Tradition	
.....	EGUCHI, Paul Kazuhisa…… 595
彙 報	…… 604
国立民族学博物館研究報告寄稿要項	…… 612
国立民族学博物館研究報告執筆要領	…… 613

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 3 No. 3

September 1978

SEKIMOTO, Teruo	Human Categories and Interpersonal Relations in Agriculture: A Case from Rural Central Java	345
YOSHIDA, Shuji	Folk Taxonomy of Illness among the Toba-Batak	416
MATSUZAWA, Kazuko	Field Notes on Family and Community Organizations in Limau Village, North Halmahera	465
OGO, Osamu	Field Notes on Fishing Activities in Limau Village, North Halmahera	486
HATA, Nobuyuki	Preliminary Report on the Dive Fishing Technique in Okinawa (1)—A Sociological Analysis of a Fishermen's Community at Tonoshiro, Ishigaki City—	520
SUDO, Ken-ichi	Preliminary Report on the Dive Fishing Technique in Okinawa (2)—Culture and Techniques of Coral Reef Fishing at Tonoshiro, Ishigaki City—	535
KURODA, Etsuko	The History of the Highland Mixe: Outside View and Inside View—A Postscript to Apuntes sobre la Historia de los Mixes de la Zona Alta, Oaxaca, México—	557
RUDDLE, Kenneth	The Geographical Distribution of Sago-Producing Palms	572
EGUCHI, Paul Kazuhisa	A Brief Account of the Life of Zigla according to Musgum Tradition	595

人事異動

昭和53年

4月1日 池田輝司を事務官(情報管理施設資料室)に採用

野村雅一を助教授(第5研究部)に採用

八村廣三郎を助手(第5研究部)に採用

小谷義郎(大阪大学施設部建築課建築第二掛設計主任)は、管理部施設課建築係長に昇任

小林正志(大阪大学工学部総務課庶務掛広報連絡主任)は、管理部企画課事業係長に昇任

田邊繁治(第2研究部助手)は第2研究部助教授に昇任

坂東 慧(北海道大学附属図書館整理課長)は、情報管理施設技術室長に配置換

百々忠夫(管理部企画課事業係長)は、管理部庶務課庶務係長に配置換

関本照夫(第5研究部助手)は第2研究部助手に配置換

三浦猛夫(情報管理施設技術室長)は、大学入試センター事業部情報処理課長に配置換

篠田隆夫(管理部庶務課庶務係長)は、大阪大学学生課体育掛長に転任

鋳物良雄(管理部施設課建築係長)は、神戸大学施設部建築課工事計画掛長に転任

5月1日 菅 龍彦(大阪大学理学部人事掛)は、管理部庶務課人事係に転任

谷口康昭(管理部庶務課人事係)は、大阪大学医学部人事掛に転任

6月16日 安富治夫(管理部展示課製作係)は、管理部会計課経理係に配置換
河野正俊(管理部会計課経理係)は、文部省大臣官房会計課経理班に併任

客員研究部門担当教官

昭和53年度における国立民族学博物館客員研究部門担当教官は、下記のとおりである。
(4月1日現在)

第1研究部

教授 佐口 透(金沢大学法文学部)

助教授 宮田 登(筑波大学歴史・人類学系)

講師 高取正男(京都女子大学文学部)

第2研究部

教授 石井米雄(京都大学東南アジア研究センター)

教授 中根千枝(東京大学東洋文化研究所)

助教授 青木 保(大阪大学人間科学部)

助教授 松園万亀雄(横浜国立大学教育学部)

第3研究部

教授 大林太良(東京大学教養学部)

教授 山口昌男(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

助教授 谷 泰(京都大学人文科学研究部)

助教授 長島信弘(一橋大学社会学部)

第4研究部

教授 増田昭三(東京大学教養学部)

教授 佐藤信行(広島大学総合科学部)

助教授 米山俊直(京都大学教養部)

助教授 牛島 巖(筑波大学歴史・人類学系)

助教授 畑中幸子(金沢大学法文学部)

第5研究部

教授 木村重信(大阪大学文学部)

教授 長尾 真(京都大学工学部)

助教授 田中二郎(京都大学霊長類研究所)
助教授 崎山 理(広島大学総合科学部)

館内各種委員会

昭和53年4月1日付で、下記のとおり昭和53年度館内各種委員会の編成を行った。(○印は委員長, *は委員長のみ定置の委員会)

1. 定置委員会

展示委員会

○大給近達, 祖父江孝男, 加藤九祚, 君島久子, 大塚和義, 松原正毅, 守屋 毅, 松山利夫

映像・音響委員会

○杉本尚次, 友枝啓泰, 福井勝義, 須藤健一, 関本照夫, 中牧弘允, 桜井哲男, 大森康宏, 吉本 忍

情報システム委員会

○佐々木高明, 大給近達, 杉田繁治, 栗田靖之, 小山修三, 山本順人, 福川圭子, 八村廣三郎

図書委員会

○竹村卓二, 和田祐一, 杉村 棟, 松澤員子, 宮本 勝

研究部運営委員会

○祖父江孝男, 中村俊亀智, 端 信行, 和田正平, 小谷凱宣, 江口一久, 野村雅一, 石森秀三, 小川 了

編集委員会

○加藤九祚, 伊藤幹治, 竹村卓二, 垂水 稔, 黒田悦子, 田邊繁治

広報委員会

○君島久子, 垂水 稔, 藤井龍彦, 秋道智彌, 大胡 修, 泉 幽香

「月刊みんぱく」編集委員会

○祖父江孝男, 石毛直道, 小山修三, 山本紀夫

資料整理委員会

○佐々木高明, 中村俊亀智, 石毛直道, 松原正毅, 藤井知昭, 大塚和義, 松山利夫, 吉田集而, 山本紀夫, 櫻井哲男

映像・音響資料選定委員会*

○佐々木高明, 和田祐一, 杉本尚次, 藤井知昭, 大森康宏

出版委員会*

○伊藤幹治, 垂水 稔

大学院委員会*

○和田祐一

2. ワーキング・グループ

データ・バンク作成

○佐々木高明, 杉田繁治, 栗田靖之, 小山修三, 松澤員子, 山本順人, 福川圭子, 八村廣三郎

JACIS (Japanese Culture Information System)

○祖父江孝男, 栗田靖之, 杉田繁治, 松澤員子, 小山修三, 守屋 毅, 大胡 修

総合(展示)目録編集

○中村俊亀智, 佐々木高明, 祖父江孝男, 大給近達, 端 信行, 栗田靖之

各個研究

昭和53年度における各個研究の研究課題は下記のとおりである。(* は客員研究部門担当教官)

第1研究部

祖父江孝男——日本人パーソナリティの再検討: 他民族との比較再考および時代的変化・地域差の分析

君島 久子——華南における種族集団と民間伝承の研究——伝承と水神——

竹村 卓二——ヤオ族の文化生態学的研究——焼畑移動耕作民の社会的適応の構造——

加藤 九祚——ロシア・ソビエト民族学史

*高取 正男——日本の古代文献にみられる禁忌意識の展開——死生の忌みを中心にして——

日本の仏教民俗としての修正会, 修二会の乱声——神霊出現の音響と演出——

- *佐口 透——新疆ウイグル人の民族文化史——文献的研究を中心に中国イスラム社会の研究——
- 守屋 毅——芸能概念に関する基礎的研究——民間祭式習俗に見出される「つくりもの」について——
- 大塚 和義——アイヌのイクパスイ(酒箸)と飲酒儀礼
- 小谷 凱宣——アラスカ・エスキモーの考古学的研究のまとめ
考古学資料の効果的利用のためのデータ・ベース研究
- *宮田 登——東アジアにおける民間信仰の比較研究
- 中山 和男——ニューギニア高地の Wild Man におけるシンボリズム
- 松山 利夫——わが国における物質文化の変容と生活様式の変化に関する研究——その2 岐阜県飛騨地方の事例——
バラノフェジー研究
- 大胡 修——日本村落社会の構造的特質についての研究 その1——海村社会における構造的特質——
ミクロネシアおよび日本における海村社会の比較研究
- 中牧 弘允——ハワイ日系人の宗教に関する研究
宗教運動における祭の比較研究
- 煎本 孝——カナダ国サスカチワン州ワラストンレイク地区におけるチペアン・インディアン
の生態人類学的研究
- 第2研究部
佐々木高明——照葉樹林文化の比較研究——その多角的分析——
南島における農耕技術の比較研究——その基礎的分析——
- *石井 米雄——南方上座部仏教サンガの比較研究
- *中根 千枝——インド・ヒマラヤ地域における諸社会の比較研究
- 友枝 啓泰——上流アマゾン流域諸族の Ayah uasca 利用に関する民族誌的研究
- 松澤 員子——パイワン族首長制——その儀礼的地位と権威の分析——
- 田邊 繁治——タイおよびランナータイ稲作農村の民族誌的研究
- 松原 正毅——トルコ系諸民族の社会構造
- 栗田 靖之——用具——行動を通じての生活様式論——
- 藤井 知昭——アジアにおける民族音楽の比較研究——その1——
愛知県北設楽郡における民俗音楽の研究
- 杉村 棟——イスラム教圏(イラン)における伝統文化の変容
- *青木 保——都市の「イメージ」の人類学的研究
土着主義的宗教運動の研究
- *松園万亀雄——南西アジア遊牧社会の社会構造の比較研究
東アフリカ、バントゥー諸族の社会構造と宗教
- 吉田 集而——Toba Batak 族の Ethnomedicine および Folk classification に関する研究
- 秋道 智彌——日本産魚種(海産)の方言に関する民族学的研究
- 吉本 忍——インドネシアにおける緋の研究
東南アジアにおける織機の研究
- 関本 照夫——中部ジャワ農村における社会的ネットワークと社会的象徴
- 第3研究部
伊藤 幹治——日本文化の構造分析

家族国家観の社会人類学的
分析

- 和田 祐——二重言語生活の諸問題
- *大林 太良——ユーラシアにおける戦神の
信仰と神話
東アジア, 東南アジアにお
ける神聖王権
- *山口 昌男——西アフリカのトリックスター
神話の構造分析
- 端 信行——ドゥル族社会における交換
の諸形態
- 和田 正平——儀礼の比較分析——東アフ
リカのイラク族を中心に
——
- 江口 一久——北カメルーンの Oral Lite-
rature
フルベ族の物質文化
- 福井 勝義——アフリカにおける牧畜民の
社会生態とシンボリズムの
研究
- *谷 泰——環地中海地域の農牧にかか
わる象徴表現の比較分析
- *長島 信弘——ケニアにおけるテソ族の民
族史
- 大森 康宏——映画による日本文化再発見
映画による海外在住日本人
の研究——適応過程の分析
——
- 須藤 健——中央カロリン諸島における
伝統的カヌーに関する研究
- 小川 了——フルベ族(セネガル)の説
話に関する言語民族学的研
究
- 山本 紀夫——南アメリカにおける根栽農
耕文化の比較研究 I. 物
質文化の比較研究——とく
に農耕具・加工道具を中心
に——
- 第4研究部
- 大給 近達——視覚人類学の方法論におけ
る文明論的表現について
文化における空間認知の形
式について
- 杉本 尚次——オセアニアにおける居住様
式の研究 1. トレス海峡地

域を中心として
ヨーロッパの民家研究——
野外博物館の民家を中心に
——

- 中村俊亀智——日本列島におけるカゴ細工
の系統的研究——とくに四
国, 九州, 沖縄地方につい
て——MPS, CA 等の測定
装置による民具資料の色彩
分析
- *増田 昭三——16世紀中央アンデス農耕社
会の民族誌
- *佐藤 信行——アンデス農牧社会の民族学
的研究
- 黒田 悦子——メソ・アメリカの祭りの研
究
- 藤井 龍彦——中央アンデス地帯先コロン
ブス期の石器文化
- 小山 修三——人類学の計量化
- *米山 俊直——社会(集団)の名称の整理
と分析
- *牛島 巖——マイクロネシア・ヤップ島の
交換体系
- *畑中 幸子——バプア・ニューギニアにお
けるソーシャル・ムーブメ
ント
- 石森 秀三——中央カロリン諸島における
伝統的航海術の民族学的研
究
- 第5研究部
- *木村 重信——先史美術の人間の・社会的
機能
アフリカの部族社会におけ
る芸術と宗教
- *長尾 真——親族関係データの計算機に
よる処理方式
民族学用語収集に関する計
算機利用
- 垂水 稔——結界および結界現象の文化
人類学的考察
- 石毛 直道——料理文化の比較研究
東部インドネシア, ニュー
ギニアにおける生活様式と
物質文化の研究

- 野村 雅一——身体の文化人類学的研究
 杉田 繁治——自然言語(音声言語も含む)の機械処理に関する基礎的研究
 *田中 二郎——アフリカの狩猟採集民についての狩猟技術の比較研究
 アフリカの遊牧民に関する生態人類学的研究
 *崎山 理——ミクロネシア西部の言語とフィリピン、インドネシア東部の言語とはどのように連続するかの比較研究
 ミクロネシア西カロリン群島の言語間に見られる激しい相違はどのような理由に起因するかの史的研究
 インドネシア語、ジャワ語と日本語との間の表現法に関する対照研究
 櫻井 哲男——韓国・済州島の民俗音楽の研究
 泉 幽香——年中行事再考——韓国農村生活における結合契機をめぐる諸問題 その1. ——
 福川 圭子——HRAF のリファレンス作成とファイルの利用法の開発
 宮本 勝——フィリピン諸種族の生活空間の比較研究
 山本 順人——音楽データ・ベースに関する研究
 八村廣三郎——地図情報の計算機入力、処理および表示に関する基礎的研究

共同研究活動

昭和53年度における共同研究班の研究課題および班員は、下記のとおりである。(五十音順、*は共同研究員として委嘱した館外研究者)

「澁澤敬三の漁村研究」

- 代表者—— 祖父江孝男
 班 員—— 秋道 智彌 伊藤 幹治
 梅棹 忠夫 杉本 尚次
 須藤 健一 松原 正毅
 米山 俊直

「“うつわ” および “うつわ” に関する用具の製作をめぐる共同研究」

- 代表者—— 中村俊亀智
 班 員——*磯崎 正彦 大塚 和義
 *岡村吉右衛門 *車 政弘
 *後藤 勇雄 *沢田 正昭
 *近森 正 *坪郷 英彦
 *降旗 英史 *松本 敏子
 *宮内 愨 *山本 忠尚
 *芳井 敬郎 吉本 忍

「黒アフリカにおける物質文化の比較研究」

- 代表者—— 和田 正平
 班 員——*赤阪 賢 *阿部 年晴
 江口 一久 *大森 元吉
 小川 了 *掛谷 誠
 *川田 順造 田中 二郎
 長島 信弘 中牧 弘允
 *西村 滋人 端 信行
 *日野 舜也 福井 勝義
 *松井 健 *森 淳
 米山 俊直 *和崎 春日

「北方民族誌研究における日本人の役割(その1. 近世を中心として)」

- 代表者—— 加藤 九祚
 班 員—— 大塚 和義 *荻原 眞子
 *黒田信一郎 佐口 透
 *佐々木和利 *原山 煌
 *堀 直 *山田 信夫

「計量的方法による民族音楽の研究」

- 代表者—— 藤井 知昭
 班 員——*小島 美子 櫻井 哲男
 杉田 繁治 *徳丸 吉彦
 長尾 真 *梁島 章子
 山本 順人

「新大陸の狩猟民文化に関する研究」

- 代表者—— 大給 近達

班員——*大貫 良夫 *岡田 宏明
*蒲生 正男 黒田 悦子
小谷 凱宣 小山 修三
松山 利夫 *山浦 清
*渡辺 仁

「東南アジアにおける慣習法の研究」

代表者——石井 米雄
班員——*池端 雪浦 *石澤 良昭
大林 太良 *梶原 景昭
*北原 淳 関本 照夫
田邊 繁治 *田村 克己
*千葉 正士 *土屋 健治
*友杉 孝 松澤 員子
宮本 勝 *吉川 利治

「ミクロネシアにおける日本文化の受容過程に関する文献研究」

代表者——杉本 尚次
班員——秋道 智彌 石毛 直道
石森 秀三 牛島 巖
大胡 修 *斎藤 尚文
須藤 健一 *中村 基衛
畑中 幸子

「憑きものを中心とした民間信仰の研究」

代表者——伊藤 幹治
班員——石毛 直道 石森 秀三
*小松 和彦 *杉藤 重信
須藤 健一 松原 正毅
宮田 登

「華南における少数民族の伝承に関する基礎資料の調査および蒐集と分類」

代表者——君島 久子
班員——*蒲原 大作 佐々木高明
竹村 卓二 *直江 広治
*中江値佳子 *新島 翠
*伴 幸子 *村井 信幸
*渡辺弥栄子

「有用植物の民族植物学的・辞書的研究」

代表者——佐々木高明
班員——*倉田 悟 *小林 昭雄
小山 修三 *阪本 寧男
*清水 建美 *田中豊三郎

*中尾 佐助 福井 勝義
*堀田 満 *松谷 暁子
松山 利夫 *安田 喜憲
*山口 裕文 山本 紀夫
吉田 集而 和田 祐一

「ハルマヘラ島の民族誌的研究」

代表者——石毛 直道
班員——大胡 修 崎山 理
佐々木高明 *堀田 満
松澤 員子 山本 順人
吉田 集而 和田 祐一

「ペルー国リマ市天野博物館所蔵品の整理・研究」

代表者——藤井 龍彦
班員——梅棹 忠夫 *加藤 泰建
*寺田 和夫 藤井 龍彦

「民族学におけるコンピュータ利用について」

代表者——栗田 靖之
班員——*池田 秀人 *岩本 圭甫
小山 修三 佐々木高明
杉田 繁治 祖父江孝男
垂水 稔 長尾 真
八村廣三郎 松原 正毅
山本 順人

「浴オホーツクの物質文化に関する比較研究」

代表者——大塚 和義
班員——*池上 二良 *宇田川 洋
*岡田 宏明 加藤 九祚
*加藤 晋平 小谷 凱宣
*萱野 茂 祖父江孝男
*其田 良雄 中牧 弘充
*藤本 強 *藤本 英夫
*藤村 久和 煎本 孝

「経済人類学の理論的研究」

代表者——端 信行
班員——石森 秀三 泉 幽香
*大塚 忠 栗田 靖之
*栗本慎一郎 *深野 康久
*吉沢 英成

「民俗文化における象徴的表現の比較研究」

代表者——田邊 繁治

班員——*赤阪 賢 石井 米雄
石毛 直道 *岩田 慶治
大森 康宏 小川 了
佐々木高明 杉本 尚次
関本 照夫 *高谷 好一
竹村 卓二 *近森 正
端 信行 松原 正毅
吉田 集而

「コンピュータによるタイ語古代法典（三印法典）の総辞索引の作成とその活用」

代表者—— 杉田 繁治
班員——*赤木 攻 石井 米雄
*石澤 良昭 *植村 俊亮
栗田 靖之 *坂本 恭章
佐々木高明 田邊 繁治

「牧畜社会の比較研究」

代表者—— 谷 泰
班員—— 梅棹 忠夫 *片倉もと子
加藤 九祚 *川瀬 豊子
*小林 茂 佐口 透
*佐藤 俊 田中 二郎
*富川 盛道 *野澤 謙
野村 雅一 福井 勝義
*福川 昭一郎 *松井 健
松原 正毅 *山田 信夫
和田 正平

「民間説話の比較研究」

代表者—— 君島 久子
班員——*浅井 亨 *稻田 浩二
*遠藤 庄治 大林 太良
*岡 節三 小川 了
*小沢 俊夫 *笠井 典子
*立石 憲利 *田中 榮一
*前田 東雄 *三原 幸久
*宮本 正興

「心理人類学の理論的研究」

代表者—— 祖父江孝男
班員——*井上 忠司 *榎本 稔
*江淵 一公 *斎藤久美子
*佐々木雄司 *濱口 恵俊
*藤岡 喜愛 *星野 命

「人類学における映像および視覚表現に関する方法論」

代表者—— 大給 近達
班員—— 秋道 智彌 *岩井 宏實
大胡 修 大森 康宏
櫻井 哲男 谷 泰
山本 順人

「“茶の文化”に関する総合的研究」

代表者—— 守屋 毅
班員—— 石毛 直道 *熊倉 功夫
佐々木高明 *角山 栄
*橋本 実 *林 恵一
*藤岡 喜愛 福井 勝義
*村井 康彦 吉田 集而

「東アジアの祭祀と芸能」

代表者—— 高取 正男
班員—— 泉 幽香 伊藤 幹治
桜井 哲男 佐藤 信行
関本 照夫 垂水 稔
中牧 弘允 藤井 知昭
守屋 毅

「西アジアにおける文化変容——民族と音楽——」

代表者—— 藤井 知昭
班員—— 江口 一久 櫻井 哲男
杉村 棟 *鈴木 道子
*高橋 昭弘 龍村あや子
松原 正毅 *馬淵卯三郎
*水野 信男 *山口 修

「土着主義的宗教運動の基礎的比較研究」

代表者—— 友枝 啓泰
班員—— 青木 保 秋道 智彌
*荒井 芳廣 石森 秀三
伊藤 幹治 *井上 順廣
*島菌 進 関本 照夫
長島 信弘 中牧 弘允
*吉原 和男

合同研究会

昭和53年

6月14日 「HRAF について」

福川 圭子

海外における研究・調査・収集活動

氏名	出発	帰国	行先
杉村 棟 (第2研究部助教授)	53. 4. 10	53. 10. 9	アメリカ合衆国
田邊 繁治 (第2研究部助教授)	53. 4. 15	53. 5. 25	タイ, ビルマ
梅棹 忠夫 (館長)	53. 6. 6	53. 7. 2	ブラジル
須藤 健一 (第3研究部助手)	53. 6. 15	53. 9. 25	アメリカ合衆国信託統治領マリアナ諸島, カロリン諸島, アメリカ合衆国
石森 秀三 (第4研究部助手)	53. 6. 15	53. 9. 17	アメリカ合衆国信託統治領マリアナ諸島, カロリン諸島, アメリカ合衆国
吉田 集而 (第2研究部助手)	53. 6. 25	55. 6. 24	アメリカ合衆国

来館者抄

昭和53年

4月1日 西村朝日太郎(早稲田大学教授)
 中山 千代(文教大学女子短期大学部助教授)

5日 周 達 生(神戸中華同文学校)
 藍 環(同上)
 フィルーズ・バーゲルザデ(イラン考古局総裁)
 池田 次郎(京都大学教授)

6日 田中 実(慶応大学教授)

7日 川村俊蔵(京都大学教授)
 Ahmad MAHYUDDIN(インドネシア・アングラス大学理学部長)

11日 河合 雅雄(京都大学霊長類研究所長)

24日 Julia L. MURRAY (Research Assistant, The Metropolitan Museum of Art, U. S. A.)
 Barbara STEPHEN (Associate Director, Royal Ontario Museum, Canada)
 Peter THIELE (Museum fuer Voelkerkunde Berlin)
 George MATHU (ナイロビ大学アフリカ研究所前所長)

25日 Joseph NEEDHAM (Director, East Asian History of Science Library, Great Britain)
 Gwei-Djen LU (Associate Director, East Asian History of

Science Library, Great Britain)

5月9日 井上 光貞(国立歴史民俗博物館設立準備室長)
 Joege A. ANSELMI (Rector, Universidad de la República, Uruguay)

20日 Mark T. ORR (アメリカ合衆国・南フロリダ大学社会科学部長)

25日 Francis W. WEEKS (Professor, Business and Technical Writing, University of Illinois, U. S. A.)

26日 西田 嵩(北九州市立美術館長)

6月1日 崔 涼 雨(大韓民国国立中央博物館長)
 金正 基(国立文化財研究所長)
 嚴 政 欽(民族学博物館設立事務局長)
 鄭 基 永(文化財管理局文化財第一課長)
 鄭 在 鏞(国立中央博物館普及課長)
 大野 晋一(大阪市立大学教授)

2日 藤間 生太(熊本商科大学教授)

3日 Didin S. SASTRAPADJA (インドネシア科学院自然科学系副会長)
 HARSOJO (同 人文社会系副会長)
 Muhammadiyah Siswo SOEDARMO (同 技術系副会長)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万国博記念公園
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題(タイトル)、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」 柳田国男編『日本民俗学研究』 岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 3卷3号

審査委員

梅 棹 忠 夫
中 根 千 枝

祖 父 江 孝 男

編集委員

伊 藤 幹 治
黒 田 悦 子
田 邊 繁 治

加 藤 九 祚 (編集委員長)
竹 村 卓 二
垂 水 稔

昭和54年1月17日印刷 非売品
昭和54年1月23日発行

国立民族学博物館研究報告 3卷3号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市山田小川41-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol. 3 no.3
September 1978

- SEKIMOTO, Teruo Human Categories and Interpersonal Relations in Agriculture: A Case from Rural Central Java
- YOSHIDA, Shuji Folk Taxonomy of Illness among the Toba-Batak
- MATSUZAWA, Kazuko Field Notes on Family and Community Organizations in Limau Village, North Halmahera
- OGO, Osamu Field Notes on Fishing Activities in Limau Village, North Halmahera
- HATA, Nobuyuki Preliminary Report on the Dive Fishing Technique in Okinawa (1)—A Sociological Analysis of a Fishermen's Community at Tonoshiro, Ishigaki City—
- SUDO, Ken-ichi, Preliminary Report on the Dive Fishing Technique in Okinawa (2) — Culture and Techniques of Coral Reef Fishing at Tonoshiro, Ishigaki City—
- KURODA, Etsuko The History of the Highland Mixe: Outside View and Inside View — A Postscript to Apuntes sobre la Historia de los Mixes de la Zona Alta, Oaxaca, México—
- RUDDLE, Kenneth The Geographical Distribution of Sago-Producing Palms
- EGUCHI, Paul Kazuhisa A Brief Account of the Life of Zigla According to Musgum Tradition



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X